



# いずみ

No.46

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

## 自作自選 16



《石アトムくん～ 拝啓アトム様 このピザ安全ですか!??》

菅原 尚俊

(2ページに「作者の言葉」)

「小麦粉はチェルノブイリ産です、チーズは福島第1原発近くで野生化した牛の乳を使って…(以下略)」(札幌彫刻美術館<ハルカヤマ・サテライト>出品「石アトムくんからの手紙」より)。何が本当なのか、何が正しいのか、何を信じればよいのか、原発はあるのか、制御できるのか? 鉄腕アトムならどうするだろうと思い、作品にしました。(菅原 尚俊)

タイトル:

「石アトムくん～拝啓アトム様このピザは安全ですか!?!」

設置場所: 小樽・春香山

制作年 : 2013年

素材 : 花崗岩、レンガ、ピザほか

サイズ : W430×D430×H250 cm

## 連載 宮の森の四季 16

### 本郷新記念札幌彫刻美術館

#### 本郷新を偲ぶ会

業務係 大場 裕子

2月13日は本郷新の命日になります。かつて、彫刻美術館ではこの日を「石狩彫刻めぐり」として、厳寒の石狩浜を訪れていました。

石狩の浜は石狩町(現在は石狩市)のご厚意により除雪され、セレモニーが催されました。季節柄、猛吹雪のなかで石狩の像と再会を果たすこともありました。

ツアーのバスには、本郷新の次男で俳優の本郷淳さんが同乗し、ロシアンハット姿がワイルドな彫刻家の本田明二さん、コートからのぞくマフラーやレッグウォーマーがおしゃれな画家の国松登さんなどがゲストとして毎回入れ替わり、本郷新の思い出話を語り、記念撮影、サインなど、愛好者のリクエストに応え親交を深めました。夕刻には、本郷新を偲ぶ会を「抜海忌」と命名し、ゆかりの芸術家など、そうそうたる顔ぶれの文化人が集いました。

ある年は本郷淳さんに代わり、本郷慶子さん(淳夫人・女優)が訪れ、偲ぶ会は一層華やき、田村京子ママの店「きりたんぼ田むら」で語り合い、唄あり手品あり、深夜までの大宴会となる盛り上がりを見せたのでした。なかでも、田上義也氏の存在は際立ったもので、北海道文化人の重鎮としての貫録とヒューマニズムを感じました。

「抜海忌」は私たち職員にとっても、財界や文化人を知る大きなきっかけとなりましたが、本郷淳さん、本田明二さんが次々と世を去り、「田むら」が店を閉めたところで、終わりとなりました。

「石狩彫刻めぐり」は今、厳寒の2月から、季節の良い、開館記念日の6月29日ころとなり、今年も計画しています。

## 札幌の彫刻と時代

吉崎 元章（札幌芸術の森美術館副館長）

皆さんもよくご存じのとおり、札幌市内には数多くの彫刻が設置されています。2009年に「札幌散策」という小冊子を再版するにあたり再調査したところ、その数は優に400点を超えていました。それぞれがさまざまな経緯によって置かれたものですが、改めてその設置年を見ていくと、いくつか集中している時期があるのがわかります。

そのひとつが昭和30年代です。私たちがよく目にする札幌駅前や大通公園、中島公園などの本郷新、山内壮夫、佐藤忠良、峯孝らの彫刻のほとんどがこの時代のもので、戦後の混乱を脱し、高度経済成長に向かう活気が日本中に満ちていた頃です。そして、冬季オリンピックが開かれた1972年戦後にも、その整備の際や記念碑としていくつもの彫刻がつけられています。

もうひとつは、1980年代中頃から90年代中頃にかけてのいわゆるバブル時代の前後を含めた約10年間です。市内に現存する1/3以上がこの頃のもので、多額の公的資金を文化面に投入する余裕があった経済的昂揚のなかで、公共空間への作品設置が全国的に盛んに行われていました。「パブリックアート」という言葉が一般化し、単体の彫刻を置くだけではな

く、その場とのかかわりを強く意識した表現が、新しい試みも含め見られるようになっていきました。札幌芸術の森の開園も1986年ですし、イサム・ノグチにモエレ沼公園のプランが依頼されたのも1988年のことです。また、定山溪のカップ彫刻（1990～91年）、駅前通り・すすきの通り沿い（1991～94年）、市内小中学校（1993～95年）、石山緑地（1996年完成）など、札幌市が発注したこの時期のほとんどが道内作家によるものであったことも特筆すべきことでしょう。

その後も、札幌ドーム周辺（2001年）やJR札幌駅の再開発（2003年）、創成川公園の整備（2011年）など、大型プロジェクトにおいて、彫刻が重要な要素として取り入れられています。

こうして見ていくと、彫刻はひとつひとつの芸術性はもとより、それぞれの時代の活力を色濃く反映していると言えるのではないのでしょうか。そして、記念碑としての過去の顕彰という意味合いだけではなく、時代が変わっても新しい価値を感じさせ続けることを通して、過去のうえに立つ現在を強く意識させながら、街の魅力を常に新鮮かつ深いものにしていくのではないのでしょうか。





## 「2013 ハルカヤマ藝術要塞展」を終えて

渡辺 行夫(彫刻家・会員)

2011年に続き、今回で2回目となるハルカヤマ藝術要塞(2013年9月8日—10月5日)も終了し、落ち着いた自分の時間を取り戻しているところです。まだ図録の発送等の仕事は残していますが、このまま静かに過去の記憶へと沈殿していくように思います。私の記憶の整理はスピードが速いのです。言い換えれば忘れやすいのですが…。新しいことに対しては自然と力や意欲が湧き出てくるのを感じますが、終わったことに関してはさらっとしています。

冒頭からこのような書き出しをしてしまうと次に続く文章が出てこないのではないかと思われてしまいますが大丈夫です。体を使って筋肉を通して刻まれた記憶は溝が深いので、かなり鮮烈な蘇りを見せてくれます。1回目の展示会ではどうなることかと思いつつも突き進み、場の魅力を共有でき、参加作家と鑑賞者にある程度満足のできる終わり方ができました。ハルカヤマの持つ地形の多様さや景色の中で約7,400人が足を運び遊びました。ということはそれだけの人たちが楽しく行動されたことになります。私も楽しかった。とてもつらい準備と労働があったにもかかわらず、自由感想ノートには、十分に楽しんでくれた内容がたくさん書かれていたおかげです。

大量の汗と筋肉痛と蚊と蝸(ブヨ)。そのことがわかっていながら、また第2回目

をやってしまいました。1年間休むとエネルギーは補充され、事務局長の阿地信美智さんをはじめ実行委員会、プロジェクトのメンバー、各氏がかなりスムーズに始動し始めました。今回は札幌彫刻美術館との連携という形をとりながら、旧本郷新アトリエを使いました。たまたまこの場所が本郷新という彫刻家ゆかりの空間でもあり、そのことで歴史的な深みも加わり展開できたことは面白かったと思います。展示範囲が広くなり、環境にも一段と変化が増し、1回目の惰性でやったとは言わせない展示ができたと思っています。67人の展示作家たちが自ら選択した空間での展示は、毎回変化に富み、意外性を見せながら展開していました。地域の人たちが自然体で受け入れ、協力し盛り上げてくれるこの空気が本当の意味で価値ある文化になっているのではないかと感じました。

札幌彫刻美術館でのハルカヤマ藝術要塞サテライト展は、荒地の外と対照的な美術館と関連付けながら小品を同時期に展示する試みでありましたが、各作家は決して力を抜かずに、また彫刻美術館側の努力もあり、とても良い展示になりました。こうしてとりあえず一段落している今、耳に残る言葉は、「来年もやるの?」「3回目もあるんでしょう?」です。しかし、今は考えられません。答えることもできません。

## イタリアの古代ギリシャ・ローマ彫刻を堪能する旅

橋本 信夫(友の会会長)

昨年10月初旬、友人を誘って家内とともに9日間のイタリアツアーに参加しました。ミラノ、ヴェネチア、フィレンツェ、ローマ、ナポリにカプリ島を加え、美術館巡りと古代彫刻などを見るのが目的でした。

今回訪ねた美術館は全部で8カ所。教会を加えると膨大な数の美術品を見たことになり、芸術鑑賞は正しく体力勝負であることを改めて痛感しました。

50年ほど前(ケネディ米大統領暗殺当時)、結婚直後2年間のNY留学の折にたまたま住んだ場所がロングアイランドのイタリア人街で、現在のイサム・ノグチ美術館の近くでした。ここで家内はいつの間にか向こう三軒両隣のイタリア人家庭で家族同様に扱われ、炊事、洗濯を始め万事イタリア式の洗礼を受けてしまいました。

その後、小生はヨーロッパ経由の帰国が具体化し、また、所属研究所の事務局長がフィレンツェ育ちだったことからイタリア行きを強く勧められ、最初のフィレンツェローマ巡りが実現しました。当時アメリカでは旅行案内書「1日5ドル旅行」がベストセラーで若者に大人気でした。早速これを手に、いかに安く、長く且つ広く世界を巡るかに熱中し、毎日旅行戦術を練り上げたものです。当時のフィレンツェはまだ観光客がまばらで英語も通じにくいほどでしたが、観光案内書を頼りに毎日あちこちと美術館や寺院を歩き回り、ルネッサンス芸術に圧倒されたのを覚えています。それだけに今回、昔の記憶をたどり、アカデミア美術館の《ダヴィテ》など見覚えのある

作品と再会した感激はひとしおでした。

残念ながらこれまでヨーロッパ旅行は家内と別のプログラムばかりで、今回が初めて一緒に旅でした。フィレンツェではピッティ宮殿を案内し、隣の代表的イタリア庭園と言われるボボリ庭園を散策しながら、あちこちに置かれた野外彫刻と対岸のドゥオモを眺めてイタリア式ぜいたくを満喫しました。



ローマではまずキャンピドリオの丘からフォロ・ロマーノを眺めてシーザーの時代に思いを寄せ、また、ミケランジェロ設計のカンピドリオ広場の両側のカピタリーノ美術館で古代ギリシャ・ローマ彫刻を心ゆくまで鑑賞しました。ここはヴァチカンと並ぶ古代彫刻の宝庫で、古代ローマ帝国時代に作られた古代ギリシャ彫刻のレプリカが大変な見どころでした。

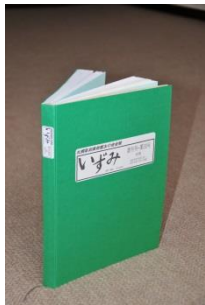
最近一部の美術館・博物館がグーグル・アースのストリートビューを使って館内の展示品を誰でも自由に鑑賞できるようウェブで公開しました。それで、現在自宅でキャピタリーノ美術館の彫刻映像をダウンロードして旅先での体験をあれこれ追想し、居ながらにして古代彫刻を鑑賞できるIT時代の楽しさと凄さを味わっているところです。

写真は《キャピタリーノのヴィナス》プラクシテレス作(BC4世紀) / 古代ローマ時代のコピー。カピタリーノ美術館所蔵

**会報「いずみ」合冊できる  
松原安男さんが手作りで製本  
創刊から30号まで**

友の会の会報「いずみ」の創刊号から30号までを1冊の本にまとめた「合冊」がこのほど出来上がり、会にプレゼントされた。会員の松原安男さんの手作り製本。

「いずみ」は2002年9月の創刊。以来、3か月ごとに年4回発行のペースを厳守、今号で46号まで続いた。合冊に収められたのは創刊号から2010年1月発行の30号まで。



鮮やかなグリーン色のハードカバーに「いずみ」のタイトルが貼り付けられ、実物で保管されていた30冊分が糸や針金などを使わずノリだけでとじる「無線綴じ」のため、どのページを繰っても左右に開いて読みやすい。本の厚さ2センチほどあり、がっしりとした装丁。

30号までは編集担当者がパソコンで原稿を打ち、レイアウトをしてコピー機で印刷するという文字通り手作り感覚で発行していただけた。合冊からは当時の苦勞が手に取るよう。創刊当初編集に携わった橋本信夫会長は「いろいろ苦心やら失敗を重ねて発行してい

たところが思い出されて」と感慨深げ。

会では既刊の会報の残部が多少あることからさらに10部ほどの作成を松原さんに依頼、会の足取りを知る貴重な資料にする考え。

**彫刻基礎学習会再始動**

**座学や実地体験など多彩に**

彫刻の清掃活動など野外での行事が盛んだったことから夏季期間中は休止していた彫刻学習会が10月から再び始まり、活発な活動を続けている。



再開第1回は10月25日、札幌・エルプラザで行われ、25人が参加して盛況だった。橋本信夫会長が「イタリア美術を訪ねて」の演題で、ミケランジェロを中心としたイタリアの彫刻や建築について映像を映しながら紹介、さらに、大通公園の彫刻の解説文作成の経験談発表などがあった。

続いて11月1日には冷たい風の中、大通公園で彫刻を前にしての解説実地体験。2, 3丁目の彫刻6点を回り、直接、彫刻に触

れるなどして感想を話し合った。

さらに同20日にもエルプラザで第3回学習会。橋本会長を講師にイタリアの彫刻や美術館について勉強したほか、山内壮夫「希望」像の作品解説、常田益代さんからコンクリート作品の素材としての問題点などの紹介があり、充実した学習会となった。(長峯慰子)

**野外彫刻長期保全対策で**

**近く札幌市長に要請文**

友の会は長く風雪にさらされて痛みが激しい野外彫刻の保全と補修を求めて近く札幌市長あてに要請することになり、その要請文がまとまった。

要請文は「『街なかの美を守ろう』の市民運動からの要請」として上田文雄札幌市長に提出する予定。

札幌は彫刻の似合う街と言われ、500点余りの彫刻があるが、長年、鳥のフン害や排気ガスなどによる腐食などで無残な姿になっているものも多いが、ほとんどは補修、保全対策がなされていない。これら耐久文化財を後世に伝えるため、補修・保全に万全を期すことは札幌市と市民の責務であるとして国際都市サッポロにふさわしい保全対策を確立するよう訴える内容。

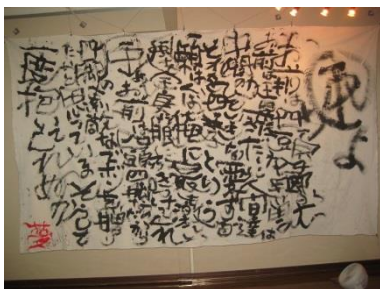


## 砂澤チニタさん逝く

## 「いずみ」の原稿執筆の前に

書家でイラストレーターの砂澤チニタさんが昨年10月29日、友の会の会報「いずみ」に約束した原稿執筆寸前に力尽き、肺がんで逝去した。享年52歳。

砂澤さんは10月、末期がんで闘病中にも関わらず、「いずみ」への原稿執筆依頼を快諾。病床では重いパソコンを軽いものに替え、執筆の準備を進めていたらし



い。友の会からの原稿執筆依頼が最後だったらしく、家族から「(友の会が)最後の依頼人で、家族が励ますより何よりの生きる力になったよう。ありがとう」との言葉があった。

チニタさんは死を直前にしても制作意欲は衰えず、10月6日、病院で書き上げたという、大きな布一面の「般若心経」を含め、父・砂澤ビッキの詩「風よ」を書いた作品などで「THIS IS CHINITA Vol. 3」展を札幌・さいとうギャラリーで開いた。字の勢いに圧倒さ

れ、最後まで魂を燃やし続けた姿を称賛すると共に深く敬服したい。

(細川房子)

## 友の会の web コンテンツ

## 「街なかの美術館」データをIT関連企業「たま」に提供

札幌のIT関連有限会社「たま」から友の会の web コンテンツ「街中の美術館」の画像と解説文の2次使用許可の申し入れがあり、このほど会社側などと協議、友の会のデータを提供するとともに今、相互の協力関係を作ることになった。

「たま」によると、学生起業家をサポートするため札幌市などが主催した「さっぽろ学生 IT アイデア



コンテスト2013」で優秀作品に選ばれた札幌市立大学デザイン学部生が制作した札幌市内の彫刻を案内するためのスマートフォンアプリ「ぶらりさっぽろアートMAP」を同社がさらに支援、開発するため友の会の Web コンテンツ「街なかの美術館」のデータを使わせてほしいというもの。

申し入れを受け、友の会と日ごろ、彫刻地図コンテンツ作りで交

流のある札幌シニアネット(SSN)の地図クラブ代表が12月6日、「たま」の代表と協議した結果、申し入れ通り、友の会のデータを提供し、活用を広げるとともに「たま」からIT関連情報を提供してもらうなど相互の協力関係を図っていくことになった。

(奥井登代)

## 北海道芸術学会誌へ掲載

## 「野外彫刻資料データベース化とその活用」

北海道芸術学会が2012年に開いた芸術学会でポスター発表した友の会の「野外彫刻資料のデータベース化とその活用」の内容を同会の「北海道芸術論評」に掲載するようこのほど要請があった。担当した久本由美子会員が内容をまとめる。

## 2014年友の会新年会日程決まる

1月25日(土)

11:30 から

会場:京王フラザホテル

会費:4,000円

ゲスト出演:元札幌チェロ奏者  
児島盛史さん

詳細は後日お知らせします。

## 事務局日誌

▼9月23日＝2013ハルカヤマ藝術要塞展(有志)▼10月10日＝定例役員会(エルプラザ)彫刻学習会計画、会報46号編集企画など協議▼10月25日＝彫刻学習会実施(エルプラザ)再開第1回▼11月1日＝彫刻ガイド実地学習会(大通公園)▼15日＝定例役員会(エルプラザ)市への野外彫刻の補修・保全対策提言、会報46号編集企画など協議▼20日＝彫刻学習会第3回(エルプラザ)▼12月6日＝IT関連企業「たま」とデータ2次使用について協議(エルプラザ)札幌シニアネットワーク地図クラブも交えて協議▼12日＝定例役員会(エルプラザ)

## 編集後記

▼松原安男さんが作った「いずみ」創刊号からの合冊は見事だった。ハードカバーでがっしりとした作り、どのページを開いても左右にパツと開いて読みやすく、玄人はだしの出来栄えに脱帽。それにもまして、創刊から試行錯誤の連続で編集に携わった橋本会長らの苦勞の跡がしのばれた▼原稿執筆をお願いしていた砂澤チニタさんが逝った。最後まで執筆への意欲を失わなかった熱意に敬服。合掌。(大内)

## 札幌彫刻美術館友の会

会報「いずみ」 No.46

2014年1月1日発行  
発行人 橋本 信夫  
編集者 大内 和  
(札幌市清田区清田5-4-6-30  
011-884-6025  
印刷 山藤三陽印刷)

## 会報「いずみ」46号 目次

自作自選 16《石アトムくん～》菅原尚俊	表紙
作者の言葉	2
宮の森の四季 16「本郷新を偲ぶ会」 大場裕子	2
風見鶏「札幌の彫刻と時代」 吉崎元章	3
寄稿「2013ハルカヤマ藝術要塞を終えて」 渡辺行夫	4
寄稿「古代ギリシャ・ローマ彫刻堪能の旅」 橋本信夫	5
友の会ニュース	6-7
「いずみ」合冊出来る／彫刻学習会再始動／彫刻保全策で市長へ要請／砂澤チニタさん逝く／webコンテンツ企業へ提供／芸術学会誌へ「彫刻データベース活用法」掲載へ／2014年新年会予告	
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか	8

## 本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

### 本館

■施設整備のため 1月17日まで休館

■コレクション展「裸婦研究」2014年1月18日(土)～5月11日(日)

本郷新が数多く手がけた裸婦像をコレクションの中から選りすぐって紹介する。

同時開催「In My Room」(展示室での若手彫刻家の個展)

▽1月18日～2月23日 高橋知佳

▽2月25日～4月6日 更科結希

■さっぽろ雪像彫刻展2014 1月24日(金)～26日(日)(予定)

札幌市内の彫刻家、美術系学生らが本館庭園に雪像を制作

### 記念館

■小企画展②「本郷新と春香山」 9月10日(火)～2014年4月13日(日)

ハルカヤマ・サテライト展と連動して本郷新と春香山の関わりを紹介する。本郷新が春香山のアトリエで制作したテラコッタ作品、石狩浜の風景を描いた油彩画、アトリエの写真などを展示。

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください。

<http://sapporo-chokoku.jp>